

第 35 回 日本腸管リハビリテーション・小腸移植研究会
テーマ：「多職種で取り組むチーム医療の実践」

会長挨拶

この度、第 35 回 日本腸管リハビリテーション・小腸移植研究会を 2023 年 3 月 4 日（土）に千里アサヒ A&H ホールにおいて開催させていただくことになりました。研究会の名称が変わってからは 3 回目となりますが、この歴史ある研究会を開催できますこと、大変光栄に存じます。大阪大学の関連では、第 8 回岡田正、第 20 回福澤正洋、第 32 回長谷川利路について 4 回目の開催となります。今回のテーマは、「多職種で取り組むチーム医療の実践」としました。腸管不全患者さんの QOL をより良いものとするためには、多科・多職種による取り組みが必要です。ただその一方で、限られたマンパワーでこうしたチーム医療をどのように実践・継続してゆくのかということが大きな課題の一つです。各施設でこのチーム医療にどのように取り組まれているのか、その工夫やご苦労をご紹介いただきますようお願いいたします。また、最近恒例となった感のある症例討論会も予定しています。腸管不全の症例数は限られていますので、各施設の経験を紹介いただき、皆様の貴重なご意見とともに共有できましたら幸いです。

小腸移植関連のシンポジウムとしては、「肝・小腸異時性移植」を企画しました。肝障害を合併する腸管不全患者さんに、本邦でどのような治療を提供できるのか、現状での取り組みや今後の課題をご提示いただく予定です。

特別講演は、旭川医科大学付属病院長古川博之先生にお願いしました。小腸移植の黎明期からご活躍された先生に、その歴史と現在地をお話いただく予定です。もちろん腸管リハビリテーション・小腸移植に関する一般演題や基礎研究に関する演題も歓迎致します。ふるってご応募くださいますようお願いいたします。

新型コロナ感染はまだまだ予断を許さない状況ですが、会期となる来年の 3 月には感染も落ち着き、皆さんと大阪でお会いできることを楽しみにしております。

令和 4 年 8 月 吉日

第 35 回 日本腸管リハビリテーション・小腸移植研究会
会長 奥山 宏臣
大阪大学大学院医学系研究科小児成育外科